

総務庁統計図書館

新宿区若松町の総務庁第二庁舎内に国立国会図書館支部総務庁統計図書館がある。名前の通り、約17万冊の図書と約2,200種の雑誌の蔵書のほとんどが統計資料である。和書は、国勢調査をはじめとする総務庁統計局刊行の統計資料を中心に各省庁、各都道府県・市町村及び民間団体の刊行した統計資料を所蔵している。洋書は、欧米を中心に世界110か国以上の統計年鑑、人口センサスなどの統計資料及び国際機関の各種統計資料が、交換によって収集されている。

20人程が閲覧できる閲覧室は、壁際に基本的な統計資料が並んでいる。その他の資料は、閲覧者がカード目録や冊子目録を利用して資料請求をし、それに応じて職員が出納する。昭和63年度には3,845人、21,706冊の利用があり、そのうち国勢調査の利用が23%と最も多いそうである。

統計図書館には、閲覧室のほかに、求める統計データの掲載資料や資料ではつかめない最新データなどの問い合わせに答えてくれる統計相談室がある。昭和43年の庁舎建設以来、閲覧室とは場所が離れているため、統計相談室に備え付けの資料は多くないが、統計資料に精通したスタッフが相談にのってくれる。昭和63年度には20,962件の相談があり、来室者のほかに電話や文書による問い合わせに

も答えている。特に電話での相談は71%を占め、新聞で統計調査の結果が公表されると同時に最新データを問い合わせるケースが多いそうだ。統計に関する技術的な相談については、統計局内の集計部門である統計センターに応援を頼むこともあるとのことである。

統計図書館を訪れる利用者は、閲覧室・統計相談室ともに、市場調査が目的の利用が最も多く、統計局で実施する統計のほかに、局外の統計に関する問い合



わせも多い。民間団体刊行の統計資料が増えている昨今、資料の収集にも苦労がありそうだ。

今回の訪問では統計センターで作成している SIS-MAC (統計情報

データベース・システム)も見学した。SISMACでは、統計局のもつ統計データ及び統計所在案内情報を検索できる。要求の多い最新統計データが直ちに画面で見られるほか、必要とする統計データの掲載資料、書誌情報を知ることができる。このシステムは、今年4月から各省庁等国の行政機関で利用できるようになり、現在約60台の端末が接続されている。

「さわやか行政サービス」2年目の統計図書館は、今後SISMACのような新しい風も取り入れ、ますます充実したサービスが繰り広げられるようである。1989.5.24訪問 (参考課 堀 純子)